

2018年度 公益財団法人信託資本財団 事業報告書

目次

□ 基本方針	2
□ 事業内容	
1 融資事業（公益目的事業1）	2-4
2 知恵・知見の蓄積事業（公益目的事業2）	4-6
3 助成事業（公益目的事業3）	6-9
4 社会デザイン事業（収益事業1）	10
5 社会企業家育成事業（収益事業2）	10-11
□ 管理部門	
1 業務執行体制	11
2 広報体制	11-12

【添付資料】

添付資料1 2018年度 正味財産増減内訳表

添付資料2 2018年度 貸借対照表

添付資料3 2018年度 損益計算書

□ 基本方針

・重点的に取り組んできた社会事業家の育成ならびに社会事業家がより強力に社会課題を解決していくための社会事業家間・社会事業家と地方行政のネットワーク化に引き続き取り組んだ。

・社会事業家と受益者・支援者間の関係性を育み、社会事業家が活躍し易くする土壌作り

に引き続き取り組んだ。

・以上の取り組みをはじめとした事業を通して、当法人が、社会課題解決に欠かせないとして設立目的に掲げている信託資本制度の充実、すなわち知恵知見のような無形資産の活用による社会における相互扶助ネットワークづくり活動に取り組んだ。

・社会的事業の裾野が広がるに連れ、事業運営・経営の難しさから消耗している事業家が増えている状況を鑑み、当年度新たに、持続可能な事業運営の指針となる学びの提供とそうした支援を全国に広げる計画策定に取り組んだ。

□ 事業内容

1 融資事業（公益目的事業 1）

社会事業家を発掘、育成していくための無利子・無担保・無保証融資事業。

融資応募段階にある事業家の相談に積極的に応じることにより、結果における融資有無に関わらず、社会事業家の育成促進を目指した。

1-1 独自融資

■実績

2018 年度末時点

累計融資実施件数： 42 件

累計融資実施団体数： 34 団体

累計融資実績額： 102,070,000 円

1 通常融資

【第 19 期募集】

・受付期間：2018 年 2 月 1 日（木）～ 3 月 23 日（金）

・審査会日：2018 年 4 月 20 日（金）

・応募件数： 3 件

・一次（書類・現地訪問）審査通過件数： 4 件

・当期審査通過件数： 1 件

↳融資対象者： 合同会社 NICONICOYASAI

代表者名： 塩川 実

所在地： 兵庫県南あわじ市市福永 539-2

契約時期： 2018 年 9 月

返済額： 3,000,000 円

返済期間： 24 ヶ月

事業内容： ベトナムにおける有機農産物の生産と販売事業。

有機農業を広めるため、同国南部ダクラック省バンメトートにて 2011 年事業立ち上げ。

南部での事業が安定してきたため、北部での生産地・販路拡大に向け、ソンラー省モクチャウにて 2017 年よりパイロット事業を開始し、生産拡大とハノイ市での販路開拓を展開中。

【第 20 期募集】

・受付期間： 2018 年 8 月 26 日（日）～ 9 月 28 日（金）

・審査会日： 2018 年 10 月 26 日（木）

・応募件数： 2 件

公益財団法人 信託資本財団 2018 年度 事業報告

- ・一次（書類・現地訪問）審査通過件数： 1 件
- ・当期審査通過件数： 1 件
 - ↳融資対象者： 二求の塾
 - 代表者名： 佐藤 壮
 - 所在地： 兵庫県東灘区御影 2-5-10
 - 契約時期： 2018 年 11 月
 - 返済額： 1,500,000 円
 - 返済期間： 24 ヶ月
 - 事業内容： 不登校・ひきこもりを克服したスタッフが立ち上げ、同じく現代社会に息苦しさを感じている若者に対して、心身の癒しの場を提供し、学習支援やカウンセリングを通して社会復帰をサポート。

【2018 年度継続・終了の融資】

- ・ 合 同 会 社 nimai-nitai
(融資額 1,000,000 円／期間 2017 年 1 月 1 日～2018 年 1 月 31 日)
- ・ 一 般 社 団 法 人 く じ ら 雲
(融資額 3,000,000 円／期間 2017 年 2 月 3 日～2019 年 1 月 31 日)

2 つなぎ融資

国または地方公共団体ないしそれに準じる組織から直接補助金、助成金等の交付を受けるまでの資金のつなぎを目的とする融資

【募集】 随時

- ・応募件数： 1 件
- ・新規実施件数： 0 件（ただし、2018 年度末現在当該応募 1 件を審査中）

1-2 金融機関との協働融資

独自融資枠では事業発展資金手当が不足する成長期事業向け融資の位置づけ。当財団が、第 1 次審査として、書類審査・本社訪問・面談を実施する。通過した事業者に対し、京都信用金庫が第 2 次審査を行う。融資が決定した事業者は、京都信用金庫に利子を支払うが、当財団が利子相当額を事業者に助成することによって、当該事業者は、結果的に無利子で融資を受けることができる仕組みである。

【募集】 随時

- ・応募件数： 3 件
- ・第 1 次審査通過件数： 1 件
- ・第 1 次審査継続中： 1 件
- ・第 2 次審査通過： 1 件
- 新規実施件数： 0 件
 - ↳融資対象者： 株式会社 ReVorg
 - 代表者名： 鯉谷淑敬
 - 所在地： 東京都渋谷区渋谷 1-27-21-1318
 - 事業内容： インバウンド活性化事業。

1,000 万円の枠を獲得したが、2018 年度末時点、京都信用金庫に対し、融資申請が行われていない。

【2018 年度継続・終了の協働融資】

- ・株式会社坂ノ途中
(利息助成期間： 2013 年 10 月 31 日～2018 年 10 月 20 日)

1-3 事業相談会の実施

社会事業家の経営上の悩みや社会における事業障壁の解決を支援するため、融資・共感助成実施中の事業者、応募検討者を対象とした代表理事による事業相談会を以下の通り開催した。

- ・日程： 2018 年 2 月 10 日(土)・8 月 4 日(土)
- ・申込件数： 各 6 件 (計 12 件)
- ・事業相談会経由の融資応募件数： 2 件

2 知恵・知見の蓄積事業 (公益目的事業 2)

2-1 良質な知恵・知見および人的ネットワークの蓄積

本年度も、共感融資・助成を開始する際に、すべての代表者と信頼責任者 (事業の支援者計 3 名) から、社会課題解決に関する知恵知見提供を得てデータとして蓄積した。

2-2 ウェブシステムの構築

蓄積した知恵・知見をベースに、社会的事業や課題に関する解決策を求める事業者と、これに対応する知恵・知見・技術を持つ事業者をウェブ上で結び付けるシステム構築に向け、2014 年度より試験運用を開始しているシステムについては、機能の再検討が必要と判断されたために、一般公開を延期し、オフラインネットワークの活性化に注力した。

2-3 オフラインネットワークの活性化

社会課題解決に向け、助成金等に過度に依存せず相互扶助し合う実質的な社会事業家や支援者のネットワーク拡大に向けたオフラインの場として、様々な主催企画を開催。特に、連続開催した「シンライノテーブル」は、社会事業家同士が協力関係を育むため、共感融資・共感助成代表者ならびに事業塾「A-KIND 塾」卒塾生が、取り組んでいる社会事業内容を共有し、事業の悩みを話し合う場とした。

■実績

「シンライノテーブル」

開催日： 2018 年 1～8 月 毎月 1 回

開催地： 東京都千代田区

参加人数： 各回 5～12 名 (当法人メンバー、共感融資・助成先、A-KIND 塾卒塾生)

内 容： 社会事業家同士の相互扶助関係醸成

「A-KIND 塾・未来設計実践塾 OB・OG 会」

開催日： 2018 年 1～12 月 毎月 1 回

開催地： 京都市風伝館

参加人数： 各回 5～10 名程度 (ただし、12 月の同窓会は 30 名)

内 容： 卒塾生同士の情報交換、相互扶助関係を目指しての各々の現場訪問計画立案

公益財団法人 信託資本財団 2018 年度 事業報告

「信託ギャザリング@東京」

開催日： 2018 年 9 月

開催地： 東京都 目黒区 Impact Hub Tokyo

参加人数：約 60 名

内 容： 関東を中心に活動する共感融資・助成先の活動紹介、各々が抱える社会課題解決に向けた障壁に関しテーブル毎の検討を実施

「地球未来シンポジウム」

開催日： 2018 年 11 月

開催地： 京都市 京都造形芸術大学

参加人数：約 50 名

内 容： 定款に目的として定める「地球環境保全」視点から、現在大きな社会問題に

あっている核廃棄物の問題解決への道筋と向き合うシンポジウムを実施

「HOSP 月間」

期 間： 2018 年 11～12 月

開催地： 京都市

参加団体：15 団体

内 容： 社会課題に向き合っている京都市の各団体に呼びかけ、同時期に各々の主催企画を開催し、広く社会課題を認知してもらい、相互扶助の重要性を理解していただく月間として設定

「信託デイ」

開催日： 2018 年 12 月

開催地： 京都市 ハートピア京都

参加人数：約 100 名

内 容： 全国で活動をする共感融資・助成先の代表者ならびに信託責任者、卒業生、寄付者が集い、これからの社会に関する重要なテーマについて学び、解決への道筋に向き合う例年の会を本年度も開催

3 助成事業（公益目的事業3）

「事業指定助成」という形態の「共感助成」事業。

随時申請を受け審査の上、助成先を決定し、これを「共感助成先」と称している。

寄付者は、共感助成先の中から支援したい事業者を指定して寄付をし、当法人は、その寄付金をもとに助成を行う。当法人は、共感助成先の学びや相互扶助ネットワークづくりの場の提供や、特に広報面での支援を行っている。

■実績

今期実施団体数： 29 団体

今期助成額： 138,081,415 円

累積実施団体数： 51 団体

【共感助成先】

・特定非営利活動法人チームレスキュー

代表者名： 小野 聡美

所在地： 愛知県瀬戸市市場町 13 番地

事業内容： 東日本大震災直後から宮城県七ヶ浜町を拠点に、復興支援活動をしていた

が、その後、被災地各所に活動範囲を広げており、本年度は西日本豪雨被災地支援を実施

- ・ 特定非営利活動法人ユナイテッド・アース
代表者名： 瀧上 智信
所在地： 兵庫県神戸市中央区東川崎町 1-7-4
事業内容： 市民の共働によって、「心育まれる希望あふれる社会」を実現すべく、海外の貧困地域への自立支援活動や環境保護活動など、様々な社会問題への取り組みを行う
- ・ 一般社団法人 KYOTOGRAPHIE
代表者名： 仲西 祐介
所在地： 京都府京都市北区鞍馬口通西入ル新御霊口町 270
事業内容： 日本の古都・京都を舞台に、伝統文化と現代アートの融合を図る国際写真フェスティバル。いまだ評価の遅れている写真芸術の理解に一石を投じるべく、国内外の写真家および写真作品を世界的な視点で選出し、京都市内のギャラリーやカフェなど約 50 カ所にて紹介に努める
- ・ 国際環境 NGO FoE Japan
代表者名： 三柴 淳一
所在地： 東京都板橋区小茂根 1-21-9
事業内容： 地球規模での環境問題に取り組む活動を行う
- ・ 一般社団法人 構想日本
代表者名： 加藤 秀樹
所在地： 東京都千代田区平河町 2-9-2 エスパリエ平河町 3F
事業内容： 政策研究で終わりではなく、議員、行政職員、企業経営者、研究者など、様々な世界で活動している人たちと連携して、その経験や問題意識を政策にして、知恵を結集して政策を実現する活動を行う
- ・ 一般財団法人 教育支援グローバル基金
代表者名： 藤沢 久美
所在地： 東京都渋谷区神南 1-5-7 ETIC.内
事業内容： 東日本大震災で被災した若者がグローバルに活躍するリーダーへと成長することを支援することを目的とした事業として、包括的なリーダーシップ支援事業を実施
- ・ 一般社団法人 ピースボート災害ボランティアセンター
代表者名： 山本 隆
所在地： 東京都新宿区高田馬場 3-13-1-B1
事業内容： 国内外で起こる災害に対し、スタッフ・ボランティアを現場へ派遣し、素早くかつ大規模に被災者支援を行う。活動内容は、支援物資の配布、炊き出し、泥かきなどの清掃作業、避難所・仮設住宅居住者へのサポートなど、行政による公助では十分な対応が追いつかないものが中心
- ・ 特定非営利活動法人 キッズドア
代表者名： 渡辺 由美子
所在地： 東京都中央区新川 2-1-11 八重洲パークビル 7 階
事業内容： 親の収入によって教育機会を奪われてしまいがちな子ども達へ無料の学習支

援を中心に、すべての子どもが夢と希望のもてる社会の実現に向け「子どもの貧困」および「教育格差」を解決するための活動を行う

・一般社団法人 Japan Treasure Summit

代表者名： 小宮山 宏

所在地： 東京都渋谷区南平台町 6-4-201

事業内容： 学術芸術のすばらしき伝え、寄附により学術芸術を支える文化の醸成について考える機会を提供するサロン活動を行う。また、人材育成として学術芸術活動のためのファンドレイザー育成プログラムを展開

・一般社団法人グリーンピース・ジャパン

代表者名： 細川 弘明

所在地： 東京都新宿区西新宿 81-13-11 NF ビル 2F

事業内容： 地球規模の環境破壊を止めることを目的に、環境破壊の現場調査、科学的な分析結果に基づくレポートや代替案の作成、メディア等への情報提供、国連「総合協議資格」を利用した国際会議での働きかけや交渉過程の監視、政府・企業への代替案の提案・要請を行う

・一般社団法人アクト・ビヨンド・トラスト

代表者名： 星川 淳

所在地： 東京都文京区湯島 2-9-10-2F

事業内容： 「自然環境と人間生活の調和を目的とした市民の主体的行動を支援する」という事業目的に沿って、(1)ネオニコチノイド系（浸透性）農薬のリスク低減、(2)脱原発・エネルギーシフト、(3)東アジア環境交流の3分野で公募助成および企画助成による問題解決型の支援と、市民活動促進のための環境醸成および触媒作用を図る自主企画を実施

・特定非営利活動法人離島経済新聞社

代表者名： 大久保 昌宏

所在地： 東京都世田谷区三軒茶屋 2-49-6

事業内容： 日本で「本土」と定められる5島以外の約400島の「有人離島」の情報を集め、伝え、支える活動を行っている

・一般社団法人こいのぼり

代表者名： 菅沼 正司

所在地： 愛知県豊田市渋谷町 1-1-1 6

事業内容： 有効な治療法が存在しない難病「ミトコンドリア病」の社会的創薬プロジェクトである、「7 SEAS PROJECT (7SP)」を支援する事業を展開

・Bazaar café

代表者名： マーサ メンセンディーク

所在地： 京都府京都市上京区岡松町 258

事業内容： 「誰もがありのままの姿で受け入れられ、多様な価値観を互いに尊重すること」を理念とし、それに共感する仲間と居場所「バザール・カフェ」を運営。生きることに困難を抱えている人たちの雇用の場、居場所になっており、カフェを訪れる一般客が意識しない形での支援者になる事業を展開

・特定非営利活動法人二求の塾

公益財団法人 信託資本財団 2018 年度 事業報告

代表者名： 佐藤壮
所在地： 兵庫県神戸市東灘区御影 2-5-10
事業内容： 不登校・ひきこもりを克服したスタッフが立ち上げ、同じく現代社会に息苦しさを感じている若者に対して、心身の癒しの場を提供し、学習支援やカウンセリングを通して社会復帰のサポートを行っている

・特定非営利活動法人健康サロン

代表者名： 水内義明
所在地： 広島市安佐南区東野一丁目 20 番 6 2 号
事業内容： 今ある高度な医療人材を活用し、地域の予防医学に注力することで健康寿命の延伸を支援

・ともいき京都

代表者名： 田村 恵子
所在地： 京都府京都市下京区万屋町 3 4 2 ガーデンコート河原町 9 0 7
緩和ケアパートナーズ事務局内
事業内容： がんを体験した人、その家族、親しい人々、市民を対象として月 2 回、「生きることへ向き合う語り合い」「生き抜く力を育むワーク」を実施。これにより、がん体験者と市民が支え合うコミュニティづくりを行う

・公益社団法人こどもみらい研究所

代表者名： 太田倫子
所在地： 宮城県仙台市青葉区中央 4 丁目 1 0 番 3 号 仙台キャピタルタワー 3 階
事業内容： 2011 年に発生した東日本大震災後の社会の混乱のなか「自分たちもなにかの役に立ちたい！」と考えた子どもたちが、震災のこと、復興のこと、頑張っていること、世界中から寄せられた支援に感謝していることなどを伝えるために、2012 年 3 月 11 日から、子どもたちの取材活動による新聞を作成

・特定非営利活動法人テイラー・アンダーソン記念基金

代表者名： 藤崎一郎
所在地： 東京都港区高輪一丁目 5 番 7 号 クレール高輪 7 0 1
事業内容： 東日本大震災で亡くなった米国人の英語助手、テイラー・アンダーソンの「日米のかけ橋になりたい」という遺志を実現するため、テイラーの父と当時の駐米大使が共同代表となり、テイラーが教えていた宮城県石巻市を中心に子どもたちを支援する活動を続け、高校生が米国でホームステイをするなど日米の交流が深まる活動に注力

4 社会デザイン事業（収益事業 1）

講演や印刷物の販売等を行い、目指す社会について広報を行ったが、本年度は積極的な展開に至らなかった。

5 社会事業家育成事業（収益事業 2）

社会事業家育成や、社会事業をサポートする行政職員育成を目的とした塾を本年度も引き続き開講した。

5-1 A-KIND 塾

熊野英介財団代表理事を塾長とする、社会的事業家育成塾。

社会経験者で、事業をしているあるいは起業しようとしている者を対象に、「KIND=親切な、優しい、思いやりのある、心からの」という目には見えない、耳には聞こえない価値を形にし、売り手よし・買い手よし・世間よし・未来よしという「四方よし」の持続可能な社会事業を行うことで、事業の生存確率をあげ、利益を上げるための原資である信頼関係を増幅するという視点に立った講義を実施。

社会事業に限らぬビジネスの原点である「人の心を掴み」拡大再生産を行うことを、講師から、また仲間である事業家から学んでいく。

本年度は、第4期生。

当塾生によるコミュニティは本年度で約80名となり、毎月卒塾生による自主的な対話・勉強会が開催され、相互扶助関係性構築に向けて動いている。

■第4期開講実績

- ・開催日：2018年4～12月
- ・受講者数：20名

5-2 未来設計実践塾

行政職員を対象とした塾。

様々な社会課題を抱える日本の各地域において、市民の当事者意識を育み、市民が社会的事業を通して社会課題の解決に取り組みやすい環境を整備するための政策形成を学び合う場として開講した。

1期目は2年間に跨っての実施であったが、2期目は本年度内での実施とした。

講師は熊野代表理事や民の会計制度指導で公認会計士である榎下理事が担当。

卒塾生は、民のプレーヤーであるA-KIND塾生との交流を重ねており、身近に接し合うことにより、助成をする側される側といった旧態然とした関係性ではなく、官民の垣根を超えた協働をしやすい関係性の醸成が進んでいる。

■第2期開講実績

- ・開催日：2018年6月～12月
- ・受講者数：10名

5-3 NPOを極めるアカデミー塾

京都府委託事業として府として初の試み、NPO育成塾「NPOを極めるアカデミー塾」を受託開講。

単に経理やプロジェクトマネジメントといった技術的なことを学んでもらうだけではなく、持続可能な事業のために必要な思考方法等、事業の本質について学ぶ場として実施しており、次年度にわたって継続開講中である。

■第1期開講内容

- ・開催日：2018年12月～2019年3月
- ・受講団体：京都府内 特定非営利活動法人 計8団体
 - 特定非営利活動法人京都スポーツ・障がい者スポーツ推進協会
 - 特定非営利活動法人京都フィルハーモニー室内合奏団
 - 特定非営利活動法人再生医療推進センター
 - 特定非営利活動法人寺子屋プロジェクト
 - 特定非営利活動法人京都運動器障害予防研究会
 - 特定非営利活動法人京都自死・自殺相談センター
 - 特定非営利活動法人そよかぜ子育てサポート

特定非営利活動法人まちづくりねっと・うじ

□. 管理部門

1 業務執行体制

1-1 職員の入れ替わり

3年間にわたって事務局を支えた職員が関係先に入るために退職。設立時メンバーや元インターン、A-KIND 卒塾生など、新たな職員体制が事務局を引き継いだ。

現体制をベースに、今後は外部との業務委託関係で事業を拡充していく予定である。

1-2 インターン生の受入

現在の職員同様インターン生から職員になる者が続いている。

本年度も、社会事業家やその支援者になっていくような人材の育成を目的として、関西圏の大学から最大4名のインターン生の受け入れを行った。

引き続き、積極的にインターンの受け入れを行っていく予定である。

1-3 コミュニティスペース運営による事業

当法人オフィスが入る建物「風伝館」内の無料貸出コミュニティスペース運営業務を引き続き受託することにより、オフィス賃料を抑えている。

2 広報体制

2-1 ウェブページの更新

設立10年目を次年度迎えるにあたり、初めてウェブページの全面リニューアルを実施。財団の事業内容を理解してもらい易い、共感融資・助成先の社会事業家を支援し易いページ作りを行った。

2-2 SNS・メールマガジンでの発信

メールマガジン（月1回発行）およびSNS（主にFacebook）にて、当法人および共感融資・助成先の活動に関する定期的な発信を行い、引き続き賛同者の拡大をはかった。

2-3 ありがとう本チラシの作成

寄付の仕組みの中に「ありがとう本」という本等での寄付の仕組みがあるが、本年度は、共感助成団体で「ありがとう本」による寄付を増やすために使用してもらうためのチラシを作成、配布した。

2-4 メディアサイト作成に向けたインタビューの実施

事業進捗のヒヤリングを行って広報することにより共感融資・助成先、卒塾生の事業を支援するインタビューを新ウェブサイト上で開始した。

以上